

中国農村における「結婚適齢期」男性の結婚費用にみる
家系継承のコストとジェンダー

Gender and the Costs of Lineage Continuation:
Marriage Expenses for “Marriageable-Age” Men in Rural China

大学院人間文化創成科学研究科
ジェンダー学際研究専攻 余 楽

1. 要約

(和文)

本調査は、中国内陸部農村において上昇を続ける結婚費用に着目し、とりわけ「結婚適齢期」¹とみなされた未婚男性の婚姻を成立させるために、農民工（出稼ぎ労働者）世帯がいかなる資源動員を行っているのか、またその負担がどのように配分されているのかを、ジェンダーの視点から明らかにすることを目的とする。調査の結果、県城（地方小都市）における住宅取得、自動車購入、結納金、婚約儀礼、披露宴費用などの結婚費用は、農民工世帯に極めて大きな負担を課していることが明らかとなった。これらの費用の多くは、家父長制的・男性中心的な資源分配の慣行に従い、まず親世代の貯蓄によって賄われるが、それだけでは足りず、親戚や銀行からの借入、さらにきょうだい²からの経済的支援を通じて初めて成立していた。こうした高額な婚姻のための支出は一時的な負担にとどまらず、親世代に老後資金の切り崩しを迫り、健康状態が悪化するなかでも就労を継続せざるをえない状況を生み出していた。その結果、親世代の生活リスクは一層高まっていた。また、家計資源が男性の結婚費用に集中することで、他のきょうだいの生活設計にも影響を及ぼしていた。また、男性の婚姻達成は、世帯全体による資源の動員と、世帯内における不平等な資源配分によって支えられていた。以上より、本調査は、現代中国農村における結婚費用の増大が、単なる「高額結納金」問題ではなく、家系を継承するためのコストの過重化において、ジェンダー不平等の可能性を示唆した。

¹華中師範大学中国農村研究院・黄振華教授研究グループの調査報告によれば、農村部では一般に25～28歳が結婚年齢とみなされ、28歳を超える未婚男性は「大齡」と認識される傾向があるという。本稿ではこの知見を参考にしつつ、茶県における聞き取り調査および参与観察に基づき、婚姻達成に向けた住宅取得や婚資準備が現実的な課題として顕在化する25歳を超える未婚男性を、便宜的に「『結婚適齢期』男性」として捉える。

² 本稿では、同一親世代に属する子どもたちを性別を問わず指す場合、「兄弟」ではなく「きょうだい」と表記する。「兄弟」は一般に兄弟姉妹全体を指して用いられることもあるが、語義上は男性のきょうだい関係を想起させやすい。本稿の調査地である中国内陸農村部では、男児選好のもとで第一子が女兒の場合に第二子出生が容認されたため、姉と弟や姉と妹からなる世帯構成も少なくない。したがって、本稿で取り上げる対象地の実態に即し、同一家族内で2人以上から構成される子どもたちのことを「きょうだい」と表記する。また、姉や妹についても性別化されたきょうだい関係に着目し、「女性きょうだい」とする。

(英文)

This study focuses on the rising costs of marriage in rural inland China and aims to examine, from a gender perspective, how Nongmingong (migrant worker) households mobilize resources to enable the marriage of unmarried men considered to be of “marriageable age,” and how the resulting burdens are distributed within the family. The findings reveal that marriage-related expenditures—such as purchasing a house in county seats (small urban centers), buying a car, paying betrothal gifts, financing engagement rituals, and covering wedding banquet expenses—place a disproportionately heavy financial burden on the groom’s side. Most of these costs are first covered by the savings of the parental generation, in accordance with patriarchal and male-centered norms of resource allocation. However, parental income alone is often insufficient, and marriages are only made possible through additional borrowing from relatives or banks, as well as through financial support provided by siblings. Furthermore, such high marriage-related expenditures were not merely a temporary financial burden. They compelled the parental generation to draw down their retirement savings and created situations in which they had no choice but to continue working even as their health deteriorated. As a result, the life risks faced by the parental generation increased further. In addition, the concentration of household resources on financing a son’s marriage also affected the life planning of other siblings. Moreover, men’s marriage attainment was supported by the mobilization of resources by the household as a whole and by the unequal allocation of resources within the household. Based on these findings, this study demonstrates that the rising costs of marriage in contemporary rural China are not simply a matter of “high betrothal gifts,” but rather suggest that the escalating costs of sustaining the family lineage may entail forms of gender inequality.

2. 現地調査期間：2026年2月12日～3月10日

3. 調査背景

本調査の対象地は、中国内陸部に位置する湖北省茶県（仮名、地方小都市）³である。調査は農村地域の行政中心地である県城、および県城の管轄下にある複数の農村集落において実施した。近年の中国農村、とりわけ内陸部の農村地域では、結婚費用の上昇（靳小怡,段朱清 2019,2023）が指摘されており、茶県もまた、このような傾向が顕著にみられる地域の一つである。後述するように、自動車の購入、県城における住宅取得、結納金、婚約儀式、披露宴の実施などが婚姻成立の事実上の要件として広く認識されており、なかでも住宅購入は、結婚市場において男性側の経済力や「誠意」を可視化する最も重要な指標として機能している。これに加え、2024年5月、茶県は湖北省第2次

³ 茶県の行政区画は、3鎮・8郷・1林区・305行政村から構成されており、県城は県人民政府の所在地であり、農村地域の中に行政・商業の中心地として位置づけられる。

婚姻習俗改革試験区（実施期間：2024年4月～2026年4月）に指定されており、高額な結婚費用の抑制や婚姻慣行の改善をめぐる政策的介入が進められている。そのため、茶県は、男性の結婚費用の上昇と、それに伴う世帯の経済的負担の増大を検討するうえで重要な事例である。

住宅価格の推移を見ると、茶県では2000年代後半以降、不動産価格が大幅に高騰し、2024年時点では1㎡あたりおおむね5000元⁴前後に達していた。100㎡前後の住宅を取得する場合、購入費だけで約50万元を要し、内装費を加えると住宅関連の支出のみで農民工世帯の数十年分の収入に相当する額となる。これに結納金・婚約儀式・披露宴費用が上乗せされることで、婚姻に伴う支出総額は若年男性もしくは親世代の所得のみで賄いうる水準を大きく超える。その結果、親世代の貯蓄の取り崩し、借入、きょうだい間の経済的支援などの世帯単位での資源調達に依存せざるを得ない状況が広く生じていた。

本調査が扱う男性の結婚費用の問題は、一見すると、個別世帯における結婚準備にかかわる問題のように見える。しかし実際には、自動車購入、住宅取得、結納金、披露宴などの婚姻に関連する支出は、男性の婚姻成立を可能にすると同時に、農村部における家系の維持や家父長制的な家族規範の再生産とも深く結びついている。

4. 調査目的

本調査の目的は、第一に、調査地における男性の結婚費用がどのような項目から構成され、その負担が世帯内の複数の成員によってどのように担われているのかを明らかにすることである。第二に、その費用調達の過程に着目し、家系維持にかかる負担の過重化と、世帯内資源配分をめぐるジェンダー不平等がどのように生じているのかを、ジェンダーの視点から実証的に検討する。

5. 調査方法

この調査における主たる調査方法は、参与観察および半構造化インタビューの二つである。調査は主に二段階に分かれており、まず2025年9～10月に現地の結婚慣行に関する基礎的な情報と事例資料の収集を予備調査として行った。続いて、2026年2月から3月にかけて本調査を実施した。この時期は中国の旧正月にあたり、全国的な祝祭期間として農村出身者の帰郷が相次ぐほか、婚約儀礼や結婚式が集中して行われる。そのため、婚姻をめぐる実践や家族・親族間の相互作用を参与観察するうえで、きわめて好機な調査時期である。調査では、結婚準備を進める未婚男性を主たるインタビュー対象とし、あわせて親世代を含む家族メンバーやブライダル関連業者に対しても補足的な聞き取りを行った。

資料収集については、県城の住宅販売センター・披露宴会場・ブライダル会社、および県の管轄下の一部の村を訪問し、未婚若年男性の家庭状況、各種儀礼の費用一覧、行政による婚姻関連政策の

⁴ 5000元を2026年4月時点の為替レート（1人民元＝23.2682円）で換算すると、約11,634円となる。なお、本研究では、金額の換算に際してこの為替レートを用いる。

チラシ、農村における結婚風俗改革に関する掲示物など、現地で配布される一次資料を収集・記録した。なお、本報告の分析にあたっては、2025年9～10月に実施した調査において収集した関連情報および事例資料についても、必要に応じて参照することとする。

表1 調査資料の概要

資料種別	主な対象・場所	確認できた内容
参与観察	結婚式・披露宴会場・ 住宅販売センター	婚姻進行のプロセス、式場利用の仕組みや費用、住宅取得の支出明細など
半構造化 インタビュー	結婚準備中の未婚男性5名やその親世代、ブライダル会社3社と関連業者	資金調達過程、 世帯内の役割分担、親世代の負担認識、結婚式などの準備や負担
資料収集	結婚式場や披露宴の価格表、婚俗改革の掲示物など	県城のブライダル会社の基本状況、行政的対応の実態、現地で共有される規範（村規民約など）

なお、聞き取り調査および参与観察の実施⁵にあたっては、調査協力者に対して事前に研究の目的・内容・成果の利用範囲を口頭にて説明し、協力の任意性および撤回の可能性を伝え、同意を確認してから記録を行った。また、プライバシーの保護および調査協力者への不利益防止の観点から、調査対象地の地域名および協力者名をすべて匿名化するとともに、個人の特定につながる情報については必要最小限の記載にとどめた。

6. 調査結果

(1) 結婚費用の構成と上昇

茶県では、結婚費用は単一の支出ではなく、住宅・自動車・結納金（指輪などの金飾りを含め）・婚約儀礼・披露宴費用など複数の項目から成るとされている。特に県城または都市（省都の武漢など）に住宅を所有していることは婚約成立の前提とされ、住宅取得は結婚費用全体の中核をなしていた。近年、結納金⁶の増大に対する社会的な注目、また学术界の議論は多いものの、実際には住宅購入費用やその後のローンの返済、内装費、婚約式の費用、披露宴費用などの付随する支出が積み

⁵ 本研究の実施においてお茶の水女子大学の倫理審査を受けた。なお、承認番号は2025-104である。

⁶ 調査対象者への聞き取りおよび村内で得られた関連情報を総合すると、調査地周辺では、結納金の水準はおおむね18.8万円前後に達していた。

重なり、世帯の負担額がさらに膨らんでいることへの議論は不足している。表2は、現地で確認した一般的な結婚にかかわる費用の主要項目を整理したものである。

表2 結婚プロセスにおける主要支出項目と費用の目安

区分	項目	内容	費用の目安
婚前準備	自動車	結婚式の開催までに購入することが多く、男性側の経済力を示す	10万～20万円
婚前準備	住宅	県城または省都の武漢などでの新築住宅の購入	50万～100万円
婚前準備	内装費	住宅購入後に大きな支出が発生、借入れを伴う	30万～50万円
婚約から結婚式に至る過程	結納金・装飾品	結納金に加え、「三金・五金」 ⁷ などの装飾品の準備が必要	約13万～19万円
婚約から結婚式に至る過程	婚約儀礼	儀式・宴席、親族贈礼、参加者の交通費などを含む	約5万～8万円
婚約から結婚式に至る過程	披露宴	会場費・宴席費・ブライダル会社・儀式に関連する費用（服・司会・メイク・写真撮影・動画撮影）など	約10万円前後

出所：現地で収集した価格表および聞き取り内容をもとに筆者作成。



法式花园厅

浪漫法式风格，奢华典雅，是婚礼的首选。无论是整个宴会厅，还是宴会厅内的每一个角落，都经过精心布置，让您的婚礼更加完美。法式花园厅，让您的婚礼更加完美。

半包套餐 优惠价: **6999**

一站式全包装 优惠价: **12999**



金玉满堂宴
(供10位享用)

- 飘香烟熏腊猪蹄
- 川味香辣牛肉锅
- 党参红枣炖土鸡
- 干锅内汁鹿茸菇
- 香菜木耳拌鱼皮
- 川味凉拌猪耳朵
- 碧身美极烤鸭
- 清蒸深海加洲鲈
- 油皇生灼游水虾
- 金牌东坡切片肘
- 手工珍珠糯米圆
- 手抓飘香扇子骨
- 农家小炒土猪肉
- 酸辣藕带炒鸡杂
- 清炒时令鲜时蔬
- 冰糖红枣银耳羹
- 经典手工雪花糕
- 清爽解腻水果盘

折后价格 **1188** 元/桌 (原价1388元)

写真1 披露宴会場演出の料金表

写真2 披露宴料理コースの価格表 (10名卓)

出所：ブライダル会社提供資料（2026年2月）

⁷「三金」とは、中国の結婚習俗において男性側が女性側に贈る金の装飾品3点を指し、一般には指輪・ネックレス・イヤリングなどが含まれる。また、「五金」とは、三金にさらに2点を加えた5点セットを指し、地域によって異なるものの、一般には指輪・ネックレス・イヤリング・ブレスレット（またはバングル）・ペンダントなどが含まれる。

(2) 住宅取得と世帯内の資源動員

結婚準備中の男性およびその親世代への聞き取り調査、ならびに県城における不動産会社および住宅団地での現地観察を通じて、住宅購入にかかる費用が親世代の貯蓄を一举に枯渇させるほどに重大な経済的負担となっていることが明らかとなった。さらに、県城で購入される新築住宅の多くは購入時点では内装が施されておらず、実際に居住するためには、さらなる多額の内装費を要する。また、家具・家電の購入費用や住宅ローンの返済も加わるため、住宅購入後の内装段階において既に結婚費用の家計圧迫が顕在化していた。親世代への聞き取り調査では、「子ども（息子）を結婚させることは親としての最大の責任だ」「とりあえず結婚を済ませて、その後はまた都市へ出稼ぎに行き、家族全員で力を合わせて返済していくしかない」という語りがみられた。このように、結婚準備には、住宅購入だけの一時的な高額支出にとどまらない、その後の家計維持に長期的



写真3 県城に立ち並ぶ新築集合住宅群



写真4 内装前の新築住戸

出所：筆者撮影（2026年2月）

表3 住宅取得のために資金調達の明細

事例	年齢	職業	住宅取得	結納金	主な資金調達
汪	26	小学校教員	140 m ² ・55.8 万元	未定	頭金 35 万元のうち母名義の口座 16 万元、父 5 万元、姉 6 万元（借入れ）、本人 9 万元。公積金ローン 20 万元。内装費約 30 万元は両親が負担予定
劉	27	公務員	190 m ² ・97 万元	18.8 万元＋五金	頭金 31 万元は一時的な商業ローンで対応し、年末に両親が 20 万元超を返済。住宅公積金ローン 60 万元。内装費 50 万元超は商業ローンと両親負担、姉から 2 万元の借入れ
于	27	林業課職員	144 m ² ・60 万元	18.8 万元＋五金	頭金、内装費ともにほとんど全てを両親が負担
吳	26	ホテル自営業	136 m ² ・71 万元	12.68 万元＋三金	費用の大部分は父や姉によって賄われ、不足分は本人名義の貯金や借金から支払われた
張	26	従軍中	158 m ² ・72.8 万元	18.8 万元＋五金	高校卒業後の従軍によって得た手当を主に本人が負担し、不足分は親が補填

出所：2025年の現地調査および2026年2～3月の聞き取り調査にもとづき筆者作成。

表3は、聞き取り調査で確認した住宅購入資金の支出明細を示したものである。表3からは、住宅取得の費用が若年男性本人の収入のみで賄われるものではなく、親世代による資金投入を中心に、きょうだいからの援助や各種ローンを組み合わせ、成立していたことが読み取れる。とりわけ親世代は、長年の貯蓄を子どもの住宅購入に充てるだけでなく、内装費やその後の住宅ローンの返済も継続的に支えていた。先行研究が指摘するように、中国農村における息子の結婚は、親世代が長年にわたって蓄積してきた経済資源を集中的に投入する場であり、その過程を通じて家庭財産が親世代から次世代へと移転していくのである（王 2010）。

実は、表3に示した対象者はいずれも姉を持つ弟である。住宅購入資金の調達過程においては、親世代の資金だけでなく、きょうだいからの経済的支援も受けていた。とくに汪と劉の事例では、住宅購入費に加えて、内装費、家具・家電費、住宅ローンの返済が重なり、親世代の貯蓄だけでは十分に賄えなかった。そのため、姉から無利子で、あるいは返済時期を明確に定めない形で経済的支援を受けていた。このように、男性が結婚を成し遂げる過程、とりわけ住宅を取得する際、親世代のみならず、姉を含む女性きょうだいの資源も動員されていた。言い換えれば、男性の結婚を実現するために世帯内の資源を動員することは、親世代から子世代へ（世代間）の資源移転を促すだけでなく、きょうだい間（世代内）の資源配分にも影響を及ぼしうることを示唆している。

（3）男性の婚姻達成を支える世帯構成員の生活変容

住宅購入をはじめとする男性の結婚達成の過程において、その費用を主に負担する親世代の労働実践や生活維持のあり方も変化している。現地調査においても多様な事例が観察された。たとえば、50歳を超える母親世代の女性は、都市部への出稼ぎ経験をもたない場合であっても、県城のホテル業、製造業、介護・サービス業といった、月給2000元前後の低賃金労働に従事しながら、家事や孫の世話を並行して担っていた。さらに、住宅周辺の空き地で菜園を維持し、食費などの日常生活費を節約する実践もみられた。

母親だけでなく、父親世代の男性もまた、加齢や長年にわたる重労働の蓄積によって都市部の労働市場で継続的に就労することが困難となるなか、県城の建設現場での日雇い労働に従事しつつ、家事、孫の送迎、農作業も担っていた。こうした労働市場から排除されつつある親世代は、生活費を可能な限り切り詰めるため、悪天候の日であっても県城と村の間を電動バイクで往復していた。さらに、村での現地調査では、長年にわたる重労働と加齢が重なるなかで、親世代の健康状態が悪化し、入院や急死に至った事例も確認された。しかし、健康上の問題が生じた後でさえ、親世代の多くは十分な治療や休養を取ることができず、就労を継続していた。また、子どもの結婚費用が優先されるなかで、自身の治療を先送りしたり、服薬などの最小限の対応にとどめたりする事例もみられた。呉の母親も、その一例である。

このように、親世代は子どもの結婚費用、とりわけ住宅購入やそれに関連する費用を捻出するために、日常生活の支出を切り詰めるだけでなく、少しでも多くの収入を得ようとして労働を継続していた。こうした実践は、親世代が自らの生活水準や身体へのケアを後回しにしつつ、労働の強度

と消費のあり方を調整し、そこで捻出した資源を息子世代へと引き継いでいることを示している。したがって、高額な結婚費用が親世代に及ぼす影響は、経済的な負担にとどまらない。それは、健康状態が悪化した後もなお、就労の継続を余儀なくさせるという、親世代の身体への深刻な負荷だった。



写真5 県城における女性の就労空間



写真6 住宅周辺で継続される家庭菜園



写真7 県城と村を往復する移動手段

出所：筆者撮影（2026年2月～3月）

男性の結婚費用を捻出する過程は、親世代のみならず、世帯内のきょうだいにも広く影響を及ぼしていた。現地調査で観察されたなかでも、親世代は、息子の住宅購入に対して可能な限り経済的支援を行い、結婚に必要な結納金についても、求められる額が10万円であれ20万円であれ、要求されたまま支払おうとしていた。その一方で、娘に対しては、結婚後に夫側の家に入る（嫁ぐ）ものとみなされるため、個人名義の住宅購入に対する支援は行われず、結婚時にごく少額の持参金を準備するのにとどまるのが一般的であった。さらに、娘の結婚に際して男性側から受け取った結納金が、弟の結婚費用に転用されるケースも確認された。つまり、女性は家産継承の対象から事実上排除される傾向がある一方で、世帯内の資源が息子の結婚達成のために優先的に振り分けられていたのである。

また、娘に対しては、弟の結婚達成への経済的協力と、親世代の老後扶養の双方が期待されていた。実際、調査した事例のなかには、娘が実家から遠く離れた都市で生活・就職するのではなく、実家に近い県城に住み、病院や学校などの安定的で「女性らしい」とみなされる職に就くよう、親が早い段階から説得していた事例もみられた。そこでは、仕事と家庭を両立しやすいことに加え、

いざという時に弟や両親を支援できることが重視されていた。このように、姉である女性は、家産の継承からは排除されながらも、親の扶養、そして家系の維持のための男性の結婚達成を支える資源提供者として事実上包摂されるという、二重の非対称的な位置に置かれていた。

なお、本調査で確認された事例について補足しておく、このような女性の非対称性の位置づけを、個々の世帯の意図的な選択としてのみ理解するのではなく、結婚費用の高騰と父系的な家族規範が交差するなかで生じている可能性を理解する必要がある。調査地では、男性中心の資源配分という既存の規範が維持される一方で、農民世帯の収入が大きく増加しないまま結婚費用が上昇していた。そのため、きょうだい、とりわけ姉に対して、弟の結婚達成に対する支援への期待が強化していることも確認された。その意味で、結婚費用の増大は、農民世帯への経済的な負担のみにとどまらず、世帯内の資源配分やケア責任の配分をめぐるジェンダー化された問題を示す手がかりを与える。女性が家産継承からは周縁化される一方で、ケア労働や資金支援の担い手として期待されるという関係については、今後さらに事例調査を蓄積しながら検討する必要がある。

(4) 政府の対応策

近年、中国では、若年男性の結婚難や結婚・出産意欲の低下を背景として、中央政府および地方政府が農村部における高額な結婚費用の抑制に取り組んでいる。中央一号文件⁸では、高額な結納金の是正が継続的に取り上げられており、2022年以降は、農村部における「移風易俗」⁹の一環として、結婚に伴う過度な費用を軽減するための施策が進められている。

具体的には、各地で婚姻儀礼の実態把握、県レベルでの改善方案の策定、「村規民約」（村の自治規約）の整備、紅白理事会の活用、ブライダル関連業者の監督、広報・啓発活動などが行われている。また、一部の婚姻習俗改革実験区として指定される村では、婚姻に関する相談支援、簡素な結婚式の奨励、良好な家風の継承や家庭教育の推進なども実施されている。さらに、結納金をめぐる紛争については、司法解釈や典型事例の公表を通じて、一定の法的基準を示す動きもみられる。調査地においても、高額な婚姻関連支出の抑制を呼びかける掲示物やチラシ、村幹部による宣伝活動が確認された。村では、結納金や結婚式の費用を抑えること、過度な儀礼を避けることが呼びかけられていた。こうした取り組みは、農民世帯の結婚費用を軽減しようとする政策的対応として位置づけられる。

しかし、現地調査からは、こうした政策対応には限界があることも明らかになった。調査地では、結納金や結婚式にかかる費用の抑制は呼びかけられているものの、男性が結婚する際に県城で住宅を購入するという慣行そのものは、政策の対象にはなっていなかった。実際には、結納金を一定程

⁸ 中国共産党中央委員会と国務院が毎年発表する農村政策に関する重要文書である。

⁹ 中国農村における冠婚葬祭の過度な儀礼化、過剰な人情（交際費）負担といった慣行・風俗を是正し、その費用（特に結納金や結婚式など）の軽減とその開催方法の改善を図る、政府主導のガバナンス実践を指す。

度抑えたとしても、住宅購入費、内装費などの支出は依然として求められていた。そのため、農民世帯の経済的負担は、必ずしも軽減されているとは言えない。

以上から、現段階の政策は、主として結納金や婚姻儀礼の簡素化に焦点を当てているといえる。しかし、調査地における結婚費用の中心は、結納金だけではなく、住宅購入とそれに関連する支出にある。そのため、住宅購入を前提とする婚姻慣行が維持される限り、高額な婚姻支出をめぐる農民世帯の負担を実質的に軽減することには限界があると考えられる。

表4 現地で確認した主な政策対応

領域	具体策	現地での確認内容
住宅取得	県城の住宅購入 優遇策	補助額や割引条件
婚俗改革	高額結納金抑制・ 文明婚の宣伝	横断幕、掲示板、呼びかけ書、村幹部 の宣伝活動
人口政策	出産・育児支援と 住宅施策の連動	子どもの数や職業属性と 結びつく優遇内容、育児支援

出所：現地収集資料および観察内容をもとに筆者作成。



写真8 婚姻費用抑制の宣伝活動

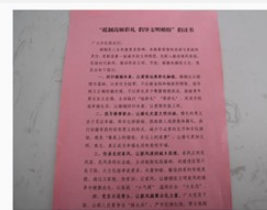


写真9 婚俗改革の呼びかけ書



写真10 高額結納金抑制を呼びかける文芸公演

写真6～9
婚俗改革と費用抑制をめ
ぐる現地の掲示・宣伝

出所：筆者撮影・収集（2026年2月～3月）

7. 考察

本調査では、調査地において男性の結婚達成に必要とされる費用が、結納金に限定されるものではなく、婚前の準備段階から結婚儀礼に至るまでの複合的な支出として構成されていることが明らかになった。これらの費用は農民世帯にとってきわめて大きな経済的負担となっていた。とりわけ、結婚にあたって住宅取得は、男性の結婚達成における重要な条件とされていた。しかし、多くの場合、それを親世代の貯蓄、女きょうだいからの援助、親族からの借入、銀行ローンなどを組み合わせることによって、はじめて実現していた。すなわち、住宅取得のための資金調達、世帯内外にわたる資源の動員によって成り立っている。

住宅を購入するために、最も大きな経済負担を引き受けていたのは親世代であった。親世代は、家系の継承や息子の結婚に対する責任を内面化するなかで、息子の住宅取得や結婚費用を率先して準備していた。その結果、自分たちの生活費を切り詰めたり、加齢や健康不安を抱えながら就労を継続したりする状況が確認された。これは、子どもの結婚費用の負担が親世代の貯蓄を消費するだけでなく、労働や消費といった生活の諸側面にも影響を及ぼしていることを示している。とくに農民工として働いてきた親世代にとって、息子の結婚資金を準備することは、自らの老後資金や生活保障を切り崩すことを意味しかねない。

以上の事例から、男性の結婚費用は親世代の資源を消費するだけでなく、その負担を他の世帯構成員、とりわけ姉へと波及させていることがわかる。息子の結婚達成を優先する家父長制的な資源配分のもとでは、親世代の老後不安や経済的困難が、姉への支援期待や生活設計の介入を強めていた。したがって、男性の結婚費用をめぐる負担は、単なる世帯内の経済問題にとどまらず、姉をはじめとする女性きょうだいの生活設計を制約し、その支援や譲歩を家族内で当然視・不可視化していく過程として捉える必要がある。

なお、中国政府による結婚費用の上昇を軽減する政策的対応には、一定の限界がある。なぜなら、そうした政策は主として結納金や婚儀の簡素化に焦点を当てる傾向があるためである。しかし、本調査で示したように、調査地における結婚費用の中心には、住宅購入費や内装費といった支出も含まれている。そのため、結納金のみを抑制しても、男性の結婚達成を支える世帯内での資源動員の不均等な配分や、親世代に集中する負担そのものを変化させられるとは限らない。

問題視すべきなのは、農村男性の結婚達成に必要なコストとリスクが、公的福祉や社会保障によって十分に担保されるのではなく、個々の世帯、とりわけ親世代に集中している点である。したがって、高額な結婚費用の問題を考察するにあたっては、結婚儀礼の簡素化や結納金の規制にとどまらず、住宅取得にかかる負担の軽減、農民工親世代の老後保障、さらには農村世帯を対象とした社会保障制度の整備をも視野に入れた包括的な検討が求められる。

本調査の意義は、男性の結婚費用をめぐる問題を、単なる結納金問題としてではなく、住宅取得を含む世帯内での資源動員の問題として捉え直した点にある。結婚費用の増大は、親世代の生活や労働を圧迫し、老後保障を不安定にさせるだけでなく、場合によっては、きょうだい間の資源配分や女性の家族内貢献の不可視化とも結びつく可能性がある。この意味で、結婚費用の問題は、国

家・市場・家族のあいだで再生産コストがどのように分担され、そのなかで誰が負担を引き受けているのかを問う問題でもある。

一方で、本調査にはいくつかの限界もある。まず、事例数が限られているため、調査地全体の傾向として一般化するには慎重でなければならない。また、姉による支援の具体的内容や、それが本人および親世代の生活に及ぼす長期的影響については、十分に把握できていない。今後は、姉と弟というきょうだい構成をもつ世帯に加え、姉と妹のみのきょうだい構成をもつ世帯への聞き取りを積み重ね、両者を比較することを通じて、男性の結婚費用をめぐる世帯内資源の動員と配分のあり方をより精緻に検討したい。さらに、その過程においてジェンダー不平等がどのように生じ、家父長制秩序がいかにより再生産されているのかについても、引き続き考察を深めていきたい。

参考文献・資料

靳小怡,段朱清,2019,「天価彩礼源何来:城镇化下的中国農村男性婚姻成本研究」.『婦女研究論叢』,(06):18-31.

靳小怡,段朱清,2023,「透視“天価彩礼”:現状、成因与治理」『山东女子学院学報』,(01):37-49.

王躍生, 2010, 「婚事操辦中的代際關係: 家庭財產積累与轉移——冀東農村的考察」『中国農村觀察』(3):60-72.

CBNData-第一財經商業数据中心, 2020, 「谷雨数据: 2020 国人彩礼地图: 浙江以 18 万元排名第一」 <https://www.cbndata.com/information> (最終閲覧日: 2026 年 4 月 3 日)。

黄振華「農村青年為何結婚難? 結一次婚花的錢」『騰訊新聞・知識万象』2024 年 2 月 6 日、<https://news.qq.com/rain/a/20240206A02KX800> (最終閲覧日: 2026 年 4 月 14 日)。

央広網,2025, 「中央一号文件 7 年 6 次点名“高価彩礼”有何深意? 專家解讀」
https://news.cnr.cn/dj/20250224/t20250224_527080431.shtml (2026 年 4 月 5 日取得)。

中国新聞網,2024, 「他趣發布《2024 彩礼研究報告》」

<http://www.chinadevelopment.com.cn/xc/2024/0805/1905858.shtml> (最終閲覧日: 2026 年 4 月 1 日)。

中国企業報,2025, 「他趣 x 高校課題組發布《2025 年中国青年彩礼研究報告》」
<https://www.zqbao.com.cn/news/5624.html> (最終閲覧日: 2026 年 4 月 1 日)。